

会議記録

会議名	平成29年度 第1回 杉並区文化・芸術振興審議会
日時	平成29年5月25日(木) 午後6時01分～午後7時17分
場所	杉並区役所 分庁舎4階 A会議室
出席者	〔委員〕佐藤信(会長)、板倉徳枝、菊地一浩、後藤朋俊、坂根シルック、 鈴木伸一、谷原博子、花柳琢兵衛、米屋尚子 〔区〕文化・交流課長(幸内正治) 〔事務局〕文化・交流課
欠席者	
配布資料	資料1 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラム支援への取組 参考資料 SUGINAMI ART CATALOGUE 参考資料 文化・芸術情報紙 コミュかる
会議次第	〔議事〕 1 開会 2 報告事項 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラム支援への取組 (1) 28年度第3回杉並区文化・芸術振興審議会自由意見の要旨 (2) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた杉並区の目標 (3) 目標の達成に向けた具体的な取組 3 その他
主な発言	別紙のとおり

発言者	発言内容
	－ 開会 －
	1 開会
文化・交流課長	定刻になりましたので、平成29年度第1回の杉並区文化・芸術振興審議会を開催いたします。これより議事進行は、会長よろしくお願いいたします。
会長	お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。それでは、第1回の杉並区文化・芸術振興審議会を開会させていただきます。 まず、事務局から何かご連絡はありますか。
文化・交流課長	ヤマザキ委員から欠席の連絡をいただいております。それから中村委員から、今日は部長会で、終了がかなり遅くなるため間に合わないのではないかとご連絡を受けております。以上です。
会長	ありがとうございます。 では引き続いて、資料の確認をお願いいたします。
文化・交流課長	資料の確認をさせていただきます。 まず、資料1として「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムへの取組」。参考資料として黒い冊子の「SUGINAMI ART CATALOGUE」、文化・芸術情報紙の「コミュかる」。それから、この名刺大の阿波おどりの絵柄のQRコード。これは4月28日から台北市で行いました東京高円寺阿波おどり台湾公演の際に「東京高円寺のPR動画」に誘導するために観客の皆さんにお渡ししたものです。後ほどそのPR動画もご覧いただけます。 以上となりますが、足りない資料がございましたらご連絡ください。
会長	資料3点になるかと思いますが、よろしいでしょうか。「コミュかる」もあるので実質4点ですね。
	2 報告事項 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラム支援への取組 (1) 28年度第3回杉並区文化・芸術振興審議会自由意見の要旨
会長	最初に資料1の「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラム支援への取組」について、ご説明をお願いします。
文化・交流課長	それでは、資料1の1をご覧ください。前回、第3回杉並区文化・芸術振興審議会を出していただいた意見の要旨を取りまとめました。ご意見としては大きく6点ありました。 1つ目が、杉並区が「こうなりたい」「こういう方向に持っていきたい」という目指すべきイメージを明確にするべきではないのか。 2点目として、「区としてどうありたいのか」という全体のコアになるものを確立させて、そこから枝葉を伸ばしていくべきである。

	<p>3点目として、目指す「レガシー」に杉並区という地域性を生かした哲学・理念のようなものを盛り込むべきではないのか。</p> <p>4点目として、杉並区は生活都市で、横のつながりと、生活の楽しさを前面に押し出していくべきではないか。</p> <p>5点目として、アート系のプログラムにはキュレーションが大切。そのような人材を育てていくべきではないのか。</p> <p>最後に、被災地との連携ではコミュニティ課題など共通テーマを設定し、発展させていくことで広がりが出ると考えられる。</p> <p>以上のようなご意見をいただいたところでございます。</p>
会長	<p>ありがとうございました。皆さんからいただいた意見が、うまく整理されて集約されていると思います。お読みになって何か気になるところがありましたら教えていただきたいと思います。よろしいでしょうか。</p> <p>それではここにある「目標を明確に」ということを具体的に展開、意見を反映させたのが次の2になるかと思しますので、引き続いて2のご説明をお願いいたします。</p>
文化・交流課長	<p>前回の審議会で、まず幹となる区の目標を明確にした上で、枝葉となる取組を考えていくべきとの意見をいただきました。そこで、区が掲げる目標を、2の「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた杉並区の目標」といたしました。この目標に沿いまして、次の3点を行っていくと決めました。</p> <p>まず1点目が、杉並区が持つ独自の資源を活用し、新しい価値観・感動を生み出すことで、「SUGINAMI」を国内外へ発信していく。</p> <p>2点目といたしまして、区内の文化・芸術に関する環境を整え、次世代を担う子どもたちに感動と体験の場を提供していく。</p> <p>3点目、文化プログラムへの支援を通じて、より多くの区民がオリンピック・パラリンピックに参加する機会を創出していく。</p> <p>この3点を目標として、これから取り組んでいきます。</p>
会長	<p>ありがとうございました。この自由意見から展開した3つの目標をもとに次の「具体的な取組」というところの中で展開していきますが、この審議会も昨年から数えてこのテーマを取り扱うのは今日で4回目となります。今日の審議会で意見を取りまとめて、次回に最終確認を行って、区に提言するという流れになると思いますが、よろしいでしょうか。</p>
文化・交流課長	<p>はい。いただいた提言につきましては取りまとめて、今後開催を予定しております議会の文化芸術・スポーツに関する特別委員会に報告をさせていただき予定で考えております。</p>
会長	<p>承知しました。どうもありがとうございます。</p> <p>それでは、今度は具体的にその目標を達成するための取組について、3で挙げられておりますので、3のご説明をお願いいたします。</p>
文化・交流課長	<p>前回と重複する部分もありますので、変更箇所を中心に説明をさせていただきます。</p>

まず3の(1)文化・芸術活動助成金事業の活用ですが、これは先ほどの目標(1)から(3)全ての達成に向けた取組になります。現在のテーマのほかに、レガシーの創出に向け、継続性があり、広く国内外へ発信していくことができる事業を意識し、新しいテーマを設定いたしました。皆様からのご意見を受けまして、実施期間を平成30年4月1日から31年3月31日に行われる事業とし、今年の夏より「広報すぎなみ」や文化情報紙「コミュかる」により、早めに周知を図っていくこととしております。

続いて(2)の(仮称)「和文化発信 BATA ART さんぽ」ですが、名称は「七夕」と「川端商店街」の共通点であります「バタ」にかけています。目標(1)と(2)の達成に向けた取組となります。地元商店街の協力を得まして、和菓子・和食器の販売や、産業振興の助成金を活用いたしまして、外国人向け浴衣の着つけ教室と連携するなど、地域性や横のつながりを活用して、既存のお祭りを補完していくような企画として育てていく予定です。

次に(3)ですが、アートサポーターの育成です。これは目標の(2)と(3)の達成に向けた取組となります。個々に行われている文化プログラムに大きな方向性を持たせていくために、キュレーターが存在が欠かせません。アートサポーター講座は、このキュレーターを育てていく取組の一環です。多くの方にアートを身近に感じていただくこと、区の文化施策を理解いただき、多くの人に発信していただくこと、点で行われている文化プログラムを、線や面に展開していくきっかけとすること、を目的としております。

続いて(4)交流自治体・南相馬市との連携ですが、これは目標の(1)の達成に向けた取組になります。今日は欠席をされておりますが、女子美術大学のヤマザキ先生にご相談させていただいたところ、話が進みまして、女子美の学生と先日復興した「常磐線」をテーマに、新しい取組を始めようと現在動いております。また、阿佐ヶ谷美術専門学校にも声をかけさせていただきまして、南相馬市の木材や食材などの資源を活用した新しい価値の創造や、資源のブランディングができないかと、地元商店街を巻き込んだ取組の検討を始めているところです。

次の(5)の詳細は、映像をご覧いただいた後にご説明いたしますが、まず、観光部門であります「EXPERIENCE SUGINAMI TOKYO (エクスペリエンス スギナミ トウキョウ)」と連携して、杉並の魅力を発信するために制作した動画「隣町・高円寺」です。先ほど資料としてお配りした、阿波おどりの絵柄のカードを台湾で配り、こちらの動画に誘導するよう、QRコードをつけてPRしてきました。

(「隣町・高円寺」動画上映)

この動画は、地方創生の交付金を使い、国の100%補助を受けて「杉

並のまちの魅力発信」として、今回は高円寺をテーマに作成しました。東京高円寺阿波おどり台湾公演に合わせ、この動画を見てもらうためのPRとして、フェイスブック、ユーチューブなどに掲載いたしました。この動画は中国語のほかに、英語、ドイツ語にも対応しており、公開から約1か月で7,300回ほど再生されております。「EXPERIENCE SUGINAMI TOKYO」のこれまでのアクセス数は月平均3,000回ですので、非常に大きな数字になっていると思っております。

続いて、もう1つの「SUGINAMI ART CATALOGUE」ですが、お配りしたこの冊子をご覧ください。これは目標(1)の達成に向けた取組で作成いたしました。オリンピック・パラリンピックに向けて、杉並の文化を積極的に国内外へ発信をし、外国人観光客の増加や地域の活性化につなげることを目的に制作をいたしました。区内のホテルを中心に、都内ホテルや観光案内所に配布をしております。当初外国での配布を予定しておりましたが、オリンピック・パラリンピックの大会組織委員会から認められなかったため、断念しました。委員の皆様で、この配布方法や配布先について、何か良いご意見がありましたら、ご提案ください。

それでは最後に、先月の28日から30日にかけて行われた、東京高円寺阿波おどりの台湾公演の映像がありますので、様子をご覧ください。

(東京高円寺阿波おどり台湾公演 動画上映)

ご覧いただいたのは4月28日、29日、30日と3日間にわたった台湾公演の様子です。この阿波おどり台湾公演は目標(1)の達成に向けた取組です。

平成27年に続いて2回目の公演になりますが、台湾現地の主催団体の発表で7万人余りの観覧があったと言われております。どの会場も多くの人で埋め尽くされ、東京高円寺阿波おどりが台湾の方々に広がりを見せてきていることを実感できた公演でした。年間約400万人を超える訪日台湾旅行客に杉並区のことを知っていただき、訪れていただくきっかけとなるように取り組んだものです。チラシやポスターを作成せず、全てフェイスブックを活用してPRをいたしました。現在、閲覧回数は42万件、動画の再生回数も22万回です。「広報すぎなみ」の発行部数は通常18万部ですが、その費用は約百万単位でかかっておりますが、今回の広告費は2万円程度なので、その費用対効果は大きかったと思います。

今後、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、区としても、もっと積極的にSNSの活用に取り組んでいきたいと考えておりますが、区単独で、このようなPRをしていくということには限界があります。ブログやフェイスブックなど、SNSの活用には長けた業者に協力を依頼していくことも1つの選択肢であると、今回実感いたしました。

最後に(6)の「並みじゃない応援団」の設立は、目標の(2)(3)

	<p>の達成に向けた取組です。これは私ども文化・交流課から担当課へ提案していくものになります。今後、教育委員会を初め、事務を担当する部署へこの提案を伝えまして、その実現に向けて調整を図っていきたいと考えております。私からの説明は以上です。</p>
佐藤会長	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>もう一度、資料1の最初に戻って再確認いたします。まず、1項でこれまでの文化・芸術振興審議会で皆さんからいただいた自由意見を、論点を整理して6項目にまとめて要旨とし、それに基づいて、東京オリンピック・パラリンピックに向けた杉並区の目標を3つ決めました。</p> <p>1、杉並が持つ独自の資源を活用して、新しい価値観・感動を生み出すことで「SUGINAMI」を国内外へ発信していく。</p> <p>2、区内の文化・芸術に関する環境を整え、次世代を担う子どもたちに感動と体験の場を提供していく。</p> <p>3、文化プログラムへの支援を通じて、より多くの区民がオリンピック・パラリンピックに参加する機会を創出していく。</p> <p>最後は今、ビデオを交えてご説明があったように、それに対する具体的な取組を開始しているということです。</p> <p>そして、冒頭で申し上げましたように、次の審議会これを提言としてまとめて、区議会に設置される委員会へ提出することになります。今までの区のご説明を聞いて、ご意見等ありましたら、ぜひ聞かせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。一言ずついただければありがたいと思います。</p>
副会長	<p>独自の資源というのは、アニメや阿波おどりもそうですね。先日、このビデオを交流協会の理事会で見せていただきましたが、実に美しいと思いました。外国人の方に着物、浴衣を着せるのも美しいけれども、阿波おどり衣装でおどりを教えてあげるともっと良いと思います。阿波おどりを教えるというプランは持っていらっしゃいますか。</p>
文化・交流課長	<p>区長は、台湾の方が単に8月の阿波おどりに観光客として来るだけではなく、台湾に阿波おどりの連をつくって、その方々が、実際に踊りに来るようつなげていきたいと考えております。では、どのようにして台湾で阿波おどりを指導していくか。その時だけ教えるのは簡単なのですが、踊れるようになるには、かなり練習を積み重ねる必要があります。その仕組みとして考えているのは、日本に台湾出身の方の「同郷会」という会の力をお借りする。その会長が今回も台湾公演へ一緒に行きましたので、その中の興味のある人にまず高円寺で踊りを覚えてもらう。その方々は頻りに台湾に帰られますので踊れるようになった後、台湾で周りの方々に教えていただく。</p> <p>もう一つは、先ほどご覧いただいた「国立台湾戯曲学院」では、舞踊も勉強しておりますので、そこで学んでいる方々に覚えてもらい、踊っていただく。台湾でも、阿波おどりの「連」につながるよう、これからどういっ</p>

	たことができるか考えていきたいと思っています。
副会長	<p>私も1時間のプログラムを子どもたちのためにやったことがあります。その時に何人かは既に、踊連に入っていて、踊れる子たちもいたのです。先日も交流協会の理事会で「杉並の子どもたちが、全員阿波おどりが踊れたらいいね」という話にもなりました。杉並にはこれだけ美しい高円寺の阿波おどりがいるのですから、小さい子もこの音が鳴ったら体を動かせる、少し踊れるというようになったら素敵ですね、という話になりました。</p> <p>可能かどうかわかりませんが、特色ある教育で、年に2、3回阿波おどりを入れる。例えば年1回入れても6年間で6回、2回でしたら12回あるので、徐々に血の中に阿波おどりが入っていきます。それからオリンピックの時に着物の着つけを、浴衣と定めなくてこの阿波おどりの衣裳を着て踊れたらすごくうれしいのではないかと思います。夏休みの学校が空いてれば、それは可能ではないでしょうか。すみません。何か勝手なことばかり言っているのですけれども。</p>
文化・交流課長	<p>全校の授業の中に組み込むというのは、難しいと思います。一部の学校、例えば高円寺中学校は地元ですから取り入れています。やはり地元の学校で「身近にあるからやろう」という形で入っていくのが自然かと思います。</p>
副会長	<p>外国の方に「若い子たちが一緒に踊ります」とアピールする。外国の方もプロに教えてもらうのが一番良いかもしれませんが、若い子たちにとっても外国人に教えるというのは、インスピレーションがあります。ユネスコではそういうことをしているので、どうかと思ったのです。</p>
文化・交流課長	<p>先ほど、台湾で「連」ができれば良いというのもあったのですが、実は8月の東京高円寺阿波おどりの際には「セッション杉並」で、募集した外国の方と少し練習して、本番で実際に踊ってもらっています。このような形で高円寺でも外国人の方向けに参加型・体験型の取組はしています。それを少しずつ広げていくということが、現実的なのかなと思います。</p>
会長	<p>他にはいかがでしょうか。</p>
委員	<p>子どもたちに少しずつ学校を通して教えるというのは良いかもしれませんね。きっと喜んで踊ると思います。少しでも踊れると高円寺のお祭りの時も、自分でも踊りたくなるから、学校の「連」みたいなものをつくって、踊ってもいいかもしれません。</p> <p>それから、台北でおやりになったのが、ほかの都市ではどうですか。</p>
文化・交流課長	<p>今回は台北市と隣の新北市で踊ったのですが、実は交通規制等全てにおいて、かなり台湾のお寺などにご協力をいただきました。</p> <p>今この公演は、ユーチューブ、フェイスブックにも載っていますので、かなりオファーが他の地方都市、例えば高雄や台南からいただいております。地方でも機会があればやりたいなと思っていますが、交通規制等、きちんと段取りをしていただけるかどうかということになります。</p>
委員	<p>旅行会社とタイアップして、旅行で日本に来て、ちょっと体験するという、そういうのも良いかもしれませんね。</p>

文化・交流課長	実は産業振興センターで、8月の東京高円寺阿波おどりの際に、外国人専用の栈敷席を設けています。それをツアーの中に組入れるという事を昨年から試行的に行っています。
委員	そうですか。「座・高円寺」という立派な練習場があるので、そこでちょっと体験してもらう講座があってもいいかもしれませんね。
文化・交流課長	それは今年、「座・高円寺」でやっています。
会長	今年から少しずつ、上演を簡単な形で見ただけのような取組みを始めています。踊っている方が普通のお勤めをなさっている方ということなので、その方たちとうまく折り合いをつける必要がありますが、1週間に一回位はやっているということができると良いと思っています。
委員	<p>台湾の学校には、舞踊部というようなものがあります。そこいこうと交流提携を結んで、プロジェクトとして「オリンピックまでにこういうのをやりましょう」というのがないと良いと思います。</p> <p>それと、子どもたちには、阿波おどりをただ踊るだけではなく、阿波おどりの歴史や、それがなぜこの杉並に根づいたのかも教えていく。我々演奏家もそうなのですが、日本の音楽の歴史は知らずに外国のものを取り入れる。それで日本を発信しましょうといっても形だけになりますので。ただ教える「教育」となるとハードルが高い。今、うちのオーケストラでよくやっているのはワークショップです。学校の授業にどの位組み入れているか分かりませんが、南相馬などの被災地に向けて、取り残された、忘れられているような文化芸術、踊りなどを取り入れて、それを体験しながらやっというプログラムを組んでいます。そういうのもできたら良いと思います。</p>
文化・交流課長	今回、東京高円寺阿波おどりは2回目ということで台湾公演を行ったのですが、もともと先ほどの国立台湾戯曲学院と杉並区で「文化芸術の相互交流を」というのを締結して、1年ごとに交代で訪問しています。杉並区は文化の発信として、東京高円寺を紹介していますが、国立台湾戯曲学院からは、一昨年ですと、台湾雑技を杉並区民に紹介をするということを行いました。来年は国立台湾戯曲学院から来ていただいて、京劇やそういったものを「座・高円寺」を中心にうまくできないかというようなことを、相互の文化交流という形で取り組んでいます。
委員	この文言で言えば2番目の目標についての(1)杉並が持つ独自の資源を活用してという、「独自の」というような表現に、「杉並の持つ阿波おどり」という1つのキーワードを入れる。「阿波おどり」を前面に出すことによって、日本文化あり、着物という伝統あり、音楽あり、アートあり、美しさあり。よく「日本独自の文化を、オリンピックを機に」というような表現をしますけれども、「独自」というと人それぞれ、価値観と違いますか、幅が違う部分であるので「阿波おどり」というのを出すと、教育もついてくる。私が住んでいるエリアは、阿波おどりを踊ったこともなければ、その時期に違うお祭りが開かれたりするところなので、何かしらの行

	<p>政的な施策がないと、全杉並の子が阿波おどりを踊るような方向には行かない。提言として阿波おどりを軸にして、前面に1項目立ててしまっても良いという気がしました。</p>
文化・交流課長	<p>そういった考え方もあるのですが、やはりそれぞれ地区には、自分の地元を愛していますので、「なぜ高円寺ばかり」というのも出てきてしまいます。強く「東京高円寺阿波おどり」を1つの目標項目に入れるというのは、逆にいえばハレーションが起こります。また、杉並区が持つ資源は、阿波おどりだけではありません。1つには日本フィルが公会堂をフランチャイズにしているというのも、これも資源として活用しているものです。そういった様々な資源を入れていく中の1つに「東京高円寺阿波おどり」もあるという形にしたいと思っています。</p>
会長	<p>他には何か。</p>
委員	<p>阿波おどりは大変結構だと思うし、杉並区でここまで成長したということはすごいことだと思います。でもやはりあれは「阿波」の踊りです。ここで芯は杉並おどり、ここに杉並区ありとか、杉並が全世界に広がるような企画をしないとイケない。阿波おどりは杉並区にとっては真似ごとです。杉並でやるのが阿波おどりだけで終わったのでは、何のための祭典かわからない。私はやはり杉並おどりを心棒につくるべきだと、舞踊家の立場で思います。</p>
会長	<p>そのほかには何か。 やはり阿波おどりのインパクトが強いので、議論が阿波おどりに集中していますけれども。</p>
副会長	<p>徳島からのオーケーはいただいて、ずっとやっているのですよね。</p>
文化・交流課長	<p>そうです。徳島の方に教えてもらいながら、60年やっていますが、当初は、高円寺のまちの活性化、商店振興で独自に何か名物をつくろうと「ばか踊り」のような形で始まりましたが、それではやはりだめだということで、きちんと指導をいただいて、東京高円寺の阿波おどりという形で発展をしました。</p>
委員	<p>徳島とのつながりが杉並にあるかどうかわかりませんが、「阿波おどり」という形があるということを生かして、例えば姉妹都市などの子どもたちも一緒に、夏の合宿のような形や、杉並と南相馬市との関係がつながるような形で、徳島の子どもたちとも一緒にかかわるよう、国内での幅も広げながら、子どもたちが踊りを外国人に教えるというのは素敵だなと思います。うちの子どもたちは荻窪の小学校に通っていたのですが、エイサーを運動会で踊ったのです。エイサーは沖縄ですよね。どうせやるのなら、沖縄の踊りを学ぶのではなくて、杉並の中にある阿波おどりを運動会で練習して、そこに本場徳島の人たちも巻き込んで、一緒に何かやっていくというもの良いかもしれないと思いました。</p>
会長	<p>この阿波おどりを研究対象にする人はいないでしょうか。高円寺阿波おどりは、2日間で100万人近い動員があります。動員人数からすれば、</p>

	<p>これは東京都のお祭りの中でもおそらく最大規模です。それから踊り手の数も1万人近い。浅草のサンバ祭りもそれに、近い人数を集めていると思うのですが、どうしてなのだろうと。</p> <p>また、阿波おどりというのは分布が広い。地方に色々な盆踊り系のものもあるのですが、阿波おどりは各地域にある。高円寺に触発されて、東京近辺でもやっているところがとても多いのですね。これが一体何なのか。一度誰かが、もう少しフィールドワークをやってみると、その伝統などを考えていく上で、何かヒントが隠れているような気がいたします。ただ、ご指摘があったように、「杉並らしさ」というものをやるために、阿波おどりだけが前面に立つということではなく、バランスよくやる必要は当然あると思います。また、この2のところはこれで良いのですが、3は資源といってもやはり絞り込んだほうが良い。そうでないと、何でも資源といえば資源になってしまうので、今回はこれとこれに重点を置くということを、もう少し説明的な文言で、絞り込んでクローズアップできると良いかなと思いました。</p> <p>この他にもSNSの利用であるとか、確かに台湾公演の時に配ったQRコードカード。若い方たちはQRコードがついてるとすぐにスマホで読み取るので展開が早いのです。そういうものを利用する時に、どういう利用方法があるのかということもまた、今回の提言に盛り込むというよりは、少しテーマとして掲げておいて良いことかと思えます。次回で提言を出さなければいけませんので、少しここが気になるとか、ここをもう少し補強したほうが良いのではないかというのがあれば、もう一度お読みいただいて、ご意見をいただければと思います。</p> <p>ちなみに今回のフェイスブックなどのSNSは、担当がおやりになったのですか。</p>
文化・交流課長	<p>交流協会と阿波おどり振興協会が行いました。</p> <p>台湾の方々も、非常にSNSを利用するので、それ活用した方が事前の告知に広がりが出るというのを台湾の方から教えていただきました。</p>
委員	<p>少し話が戻りますが、先ほどから出ていた「独自の資源」という言葉ですが、やはり「資源」はすごく抽象的です。ですから「阿波おどり」と言ってしまうほうが良いのではないかと思うのです。</p> <p>私自身は杉並区民ではないので、余計にどこにどういうものがあるのかと頭の中に描けないのですが、例えば文化芸術の拠点のマップのようなものが共有できているのか。公会堂があるとか、ギャラリーが集積している地域であるとか、劇団の拠点があるとか、こういう芸術資源がありますよ、というのをまず共有するところからその活用が始まると思うのです。言葉を直せという意味ではないのですが、発信するのでしたら「これあるよね」ということを、まず共有していくというのがベースに必要だと思います。</p> <p>実は私はこのところ、本当に今週、来週と色々な自治体のこのような会議に出ておりますが、どこもオリ・パラに向けて「独自の」とか「〇〇市</p>

	<p>らしさ」と言うのです。そんな言葉に出会うたびに、実は少し戸惑いもあります。そしていつも共通しているのは、我々はルーツにこだわりがちな傾向にあるのだと思うのです。〇〇区のオリジナルの「由緒正しさ」「伝統」と言うのですが、では、伝統は何年あれば伝統なのか。ルーツも、もとをたどればみんな大陸ではないかということもありますので、本当に突き詰めて考えると、とても相対的なものなのです。</p> <p>若い頃にアメリカで「ミュージカルアメリカ」という音楽フェスティバルに行った時の事ですが、その時期にアメリカで行われている音楽は全て「アメリカ音楽」という定義だったのです。その中で行われている日本人ミュージシャンのバンドも現代音楽もポップスも、とにかく全て「アメリカ音楽」でくくられていて、「こういうくくり方もあるのか」とすごく新鮮に思ったのです。これに比べると「杉並区民でなくては」とか「杉並出身の人でないと表彰しない」等、割とルーツにこだわって選定していきがちな日本の思考方法と違うなと思ったことがあります。</p> <p>「独自の資源を」という範囲に「今、杉並区の中で行われている、様々な文化活動、芸術活動、全てが独自ですよ」という位の度量があってもいいのかなという気がします。その中で突出したものとして、高円寺の阿波おどりがあるというのは、全くオーケーだと思いますし、それぞれが主張していけば良いと感じています。もう少し大きな度量で全部をひっくるめてやりましょう という位の提案ができたほうが良いと思いました。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。今、とても貴重なご意見をいただきました。現在アートサポーターの育成で、これから市民参加のキュレーター育成プログラムが始まっているのですが、そういう中で今のようなテーマを少し深めて議論をする。区民の皆さんひとりひとりの意識の中で、新しい地域と文化芸術の関わりが見られるような時に、ぜひ参考にしていただきながら、テーマ設定の中でも今のようなことはできると思うのです。</p> <p>それと、ご指摘の中にあつた「場」を明記するというのは——「場」というのは施設だけではなくて、例えば区内に色々な踊り、既におわら風の盆もありますし、どういう人がどの辺に住んでいるのかということのマッピングするだけでも、特色が出ると思うのです。日本舞踊家でも何人もの中心的な活動をなさっている方が、杉並在住の方でいらっしゃる。そういうのが見える形になると「あ、ここにも稽古場があるのか」とか、見えるということによって、杉並の取組のようなものが見えてきたりもする。</p> <p>考えてみると、キュレーターが最初にやることはそういうことかもしれません。その区内の文化的な場所探しのようなこと、区民の目から見たそのものというのができるとおもしろいかもしれないと思います。</p>
<p>文化・交流課長</p>	<p>杉並区には文化芸術家が多いとよく言われていて、議会でも質問があるのですが、著名な方、代表的な方は分かるのですが、実際にどれくらいの方が住んでいらっしゃるのかというのは実は分からないのです。人だけでなく場所も幾つかは分かるのですが、それをどうやって探し出していか</p>

	<p>というのは実は非常に難しいのです。今おっしゃったような形で場を明記していく時に、ある程度分かっているものをリストにして載せることはできるのですが、ではそれだけかということそうでもない。その表現の仕方が非常に難しい。</p> <p>ですから、まずキュレーターの方々に情報を集めていただく。協働提案事業ではギャラリーの発掘ということを行っていますし、アートをされている方を登録して、それを蓄積していくということもやっています。それをもう少し広げていって、そういったものを調べていく活動は、これから必要になるかと思っています。</p>
会長	<p>前にもお話に出た、アニメーションの会社や、劇団は、明らかに杉並は密集地です。</p> <p>これは余談ですが、阿波おどり協会の会長とのお話しした際に、高円寺駅北側の阿波おどりは、唐十郎さんの「状況劇場」の劇団員総出で観覧席のパイプ組みに力を尽くしていただき、唐さんたちのグループがいないと駅北側はできなかったというくらい、縁が深いということを伺いました。なるほど、そうやって掘っていくと色々なおもしろい歴史があるのかなと思いました。そういうものをキュレーターの方たちが話を聞きに行ってお拾っていくと、随分今までとは違った面で、なぜ杉並にこういうものが根づいていくのか、あるいはどういう土壌があったのかというのが見えてくると思うのです。いきなり何か、というのは少し大変なので、その機運のようなものをつくりながら、関心を持っていく。これは終わりのない活動なので、それこそ子どもたちと一緒にやるのも、とても楽しいと思います。その方向性だけでも、少し盛り込んでいただけるとありがたい。キュレーションのところか、2の資源のところか、幾つかの具体例を文言としてつけ加えつつ、「例えば」とか、「などのこういう資源」という形でちょっとフィーチャーするということができればと思います。ぜひご検討いただきたいと思います。</p> <p>そのほかには何かございますか。</p>
委員	<p>やはり人間が資源だと思うのです。アニメーションの会社は、以前は練馬区が一番多かったのですが、今は逆転しています。そして、つくっている人たち、プロダクションは中央線沿線に固まっているので、アニメーションの産業としては、杉並が断トツだろうと思っています。作品も良いものをつくっていますし、良い監督も住んでいます。日本のアニメーションの中心である、杉並区、中野区、豊島区、練馬区、この4区がお互いに協力し合って、「この一帯が新しい文化の中心地だ」という形にしたいような気がしますね。</p>
会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは今日いただいたご意見をもとに、最終的な答申としてまとめて、次回の審議の後、提出することにさせていただきます。</p>
	<p>3 その他</p>

会長	<p>では最後に「その他」ということで、事務局からご連絡があればお願いいたします。</p>
文化・交流課長	<p>先ほど会長からお話をいただきましたように、事務局が今日のご意見を踏まえまして、提言書案を作成し、次回に行われます審議会で最終的な意見集約をお願いいたします。</p> <p>今後の予定は、後日皆様に日程調整の為の日程表をお送して調整をいたしますので、返信してください。また、9月の部会では助成金の審査のお願いをいたします。こちらも、メールで日程調整をさせていただきますので、返信をお願いいたします。</p>
会長	<p>お願いが1点あるのですが、次の提言書は事前に送っていただくことはできますか。硬い文書にまとめられると思うのですが、その場合に細かい文言が後で重要な役割を果たすように思うのです。何々「と」とするのか「及び」とするのか、「並びに」とするのかというあたりで細かいニュアンスを少し変えていただいく中で、やはりこの言葉はちょっと…ということがありましたら、事前にお聞きして、議事を混乱なく進めたいと思います。お手数ですが、お気づきになったことをリターンしておいていただくと、いろいろ具体的な審議ができるのではないかと思います。やはり杉並らしい提言を出したいと思いますので、ちょっとお手数ですが、ご協力よろしくをお願いいたします。</p> <p>それでは、そのほか今、事務局からいただきましたので、何か追加、ご発言、委員のみなさまからございますか。</p> <p>ありがとうございました。ではこれで、第1回の文化・芸術振興審議会を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。</p>
	<p style="text-align: center;">－ 閉会 －</p>

平成 29 年 5 月 25 日
分庁舎 4 階 A 会議室
午後 6 時～

平成 29 年度 第 1 回 杉並区文化・芸術振興審議会 次第

1 開 会

2 報告事項

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラム支援への取組

- (1) 28 年度第 3 回杉並区文化・芸術振興審議会自由意見の要旨
- (2) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた杉並区の目標
- (3) 目標の達成に向けた具体的な取組

3 その他

【配布資料】

資料 1：東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラム支援への取組

【参考資料】

- ・SUGIYAMA ART CATALOGUE
- ・文化・芸術情報紙 コミュかる

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた 文化プログラム支援への取組

1 第3回文化・芸術振興審議会 自由意見の要旨

- ・杉並区が「こうなりたい」、「こういう方向に持っていきたい」という目指すべきイメージを明確にするべき。
- ・「区としてどうありたいのか」という全体のコアになるものを確立させ、そこから枝葉を伸ばしていくべき。
- ・目指す「レガシー」に杉並区という地域性を生かした哲学・理念のようなものを盛り込む。
- ・杉並区は生活都市で。横のつながりと、生活の楽しさを前面に出していく。
- ・アート系のプログラムにはキューレーションが大切。そのような人材を育てていくべき。
- ・被災地との連携ではコミュニティ課題など共通テーマを設定し、発展させていくことで広がりが出ると思う。

2 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた杉並区の目標

- (1) 杉並が持つ独自の資源を活用し新しい価値観・感動を生み出すことで、「SUGINAMI」を国内外へ発信していく。
- (2) 区内の文化・芸術に関する環境を整え、次世代を担う子供達に感動と体験の場を提供していく。
- (3) 文化プログラムへの支援を通じて、より多くの区民がオリンピック・パラリンピックに参加する機会を創出していく。

3 目標の達成に向けた具体的な取組

- (1) 文化・芸術活動助成金事業の活用・・・目標(1)(2)(3)

○企画提案事業

【内 容】

「企画提案事業」の新たなテーマを追加。文化・芸術活動への参加、鑑賞機会の拡充と共に、次世代の育成、新たな文化芸術の創造を目指す。

- ・子どもたちの想像力と思考力を育む事業～文化・芸術を通して世代間交流を～
- ・レガシーの創出に向けた新たな文化芸術の創造～杉並から世界へ文化を発信～

【時 期】

平成 30 年度第 1 次募集より募集開始。4 月 1 日～31 年 3 月 31 日に行われる事業が対象となり、今秋より「文化・芸術情報紙コミュかる」で告知していく。

【予 算】

現在：1事業 150万円 ⇒ 新規：各テーマ1事業 計150万円

(2) すぎなみ戦略的アートプロジェクト

(仮称)「和文化発信 BATA ART さんぽ」・・・目標(1)(2)

【内 容】

同プロジェクトに参加しているアーティストとサポーターが中心となり企画立案している。阿佐谷七夕祭の時期にあわせ、中杉通り西側の地域にて「竹製スタードーム」や「提灯づくり」の展示を行うほか、小学校の課外授業にて「七夕馬」を制作するワークショップを開催するなど、見るだけでなく「体験」できる場の提供も目指している。

また、和菓子や和食器などの販売、外国人向けに浴衣の着付教室を開催するなど賑わいを創出していく。

全く新しいイベントを行うのではなく、地域性や横の繋がりを活用し、お互いに補完していくことができる企画へと育てていく。

【時 期】

8月1日～10日

【会 場】

別紙のとおり

【予 算】

150万円程度

(3) アートサポーターの育成・・・目標(2)(3)

【内 容】

アートサポーターとは、多くの方にアートを身近に感じていただくきっかけを作り、区民目線で区民が行う文化芸術活動を評価するなど、区の文化芸術活動を下支えする区認定のサポーター。

個々に行われている文化プログラムに大きな方向性を持たせていくためにはキュレーターの存在が欠かせない。アートサポーター講座は、このキュレーターを育てていく取組の一環でもあり

- ・多くの方にアートを身近に感じていただくこと
- ・区の文化施策を理解いただき、多くの人に発信していただくこと
- ・点で行われている文化プログラムを、線や面に展開していくきっかけとすることを目的としている。

具体的な活動としては、協働事業のサポーターとして文化プログラムの企画・立案等に関わっていただくと共に、区の助成金対象事業を鑑賞し、そのレポートを審議会

部会に提出いただくことを想定している。

【時 期】

5月開講（計4回）

(4) 交流自治体「南相馬市」との連携・・・目標（1）

展示できる場所が多いがアーティストが少ない南相馬市と、アーティストは多いが展示場所が少ない杉並区。お互いの課題を解決するため杉並区から提案。

南相馬市から杉並で活動するアーティストに木材や食材など南相馬産の品を素材として提供（斡旋）いただけることに。これら素材を活用していく中で、新しい価値を生み出し、資源のブランディングに繋げていく。

杉並で活動するアーティストが南相馬市に滞在し制作活動を行う際には地域の方との交流や子供を交えたワークショップを開催するなど、積極的な交流の場を創出していく。

- ・女子美術大学と南相馬市とのコラボレーション
- ・阿佐ヶ谷美術専門学校と南相馬市の取組

(5) 杉並の魅力を国内外へ発信する取組

●観光部門 「EXPERIENCE SUGINAMI TOKYO」^{エクスぺリエンス スギナミ トウキョウ}との連携・・・目標（1）

海外の方に向け杉並の魅力を発信する動画の第1弾「隣町・高円寺」を制作。

東京高円寺阿波おどり台湾公演にて配布した団扇（3500本）にQRコード印刷して周知を図った。

【参考】アクセス数 月3000ヒット

「隣町・高円寺」だけで再生回数7300回

●「SUGIANMI ART CATALOGUE（すぎなみ アート カタログ）」の発行
・・・目標（1）

オリンピック・パラリンピックに向けて杉並の文化を積極的に世界へ発信し、外国人観光客の増加や地域の活性化に繋げることを目的として制作。

区内ホテルを中心に、都内ホテル及び観光案内所等での配布。

●「東京高円寺阿波おどり台湾公演2017」の実施・・・目標（1）

2日間で延べ1万3000人の踊り手が参加し、全国各地より100万人が集まる、東京の夏を代表するコンテンツの1つである「東京高円寺阿波おどり」を台北市内において披露した。この公演を機に国際的な芸術交流の場を創出し、相互の芸術交流による異文化理解・国際理解を進め、日本の魅力を広く発信していく。

また、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を見据え、杉並の街を訪れる方を増やし、地域の活性化にも繋げていく。

(6) 「並みじゃない応援団」の設立・・・目標 (2) (3)

「次世代の育成」、「日本文化の発信」を目的に実施。母国から応援に来られない国の方々に代わり、杉並区が応援団を派遣する。応援団は区内の児童・生徒等を中心に結成。応援にあたっては、事前にその国のことを学ぶことはもちろん、選手等との交流を通して異文化理解・国際理解に努めていくことができる体制を構築する。